

# 東日本大震災後の松川浦アサリ分布状況及び稚貝発生状況の変化

福島県水産試験場相馬支場

## 1 部門名

水産業－栽培漁業－アサリ

## 2 担当者

岩崎高資

## 3 要旨

松川浦におけるアサリの分布状況は2011年東日本大震災に伴う津波により大きく変化したものと考えられた。アサリ成貝(殻長15mm以上)の分布状況及び稚貝(殻長15mm未満)の発生状況を明らかにするために、2011年6月～2012年1月にかけて松川浦内の13定点においてアサリを採集し、1m<sup>2</sup>あたりの分布密度を求め、過去の知見と比較した。

- (1) 成貝は調査を行った13定点のうち6定点(和田、川口前、揚汐、瀬方南、棚脇前、宇多川河口)で採集され、分布密度は0.9～132.6個体/m<sup>2</sup>であった。主漁場であった川口前、瀬方南、揚汐の分布密度は1.1～18個体/m<sup>2</sup>と低く、漁場として利用されていなかった、棚脇前の密度が高かったことから津波による移動により、分布が変化したものと考えられた。
- (2) 稚貝は6～9月にかけて調査を行った13定点のうち、5定点(川口前、和田、瀬方南、棚脇前、宇多川河口)で採集され、分布密度は2.0～23.1個体/m<sup>2</sup>(平均3.7個体/m<sup>2</sup>)であった。過去の同時期の調査では、平均77.7～452.6個体/m<sup>2</sup>であり、2011年9月までの稚貝の着底は極めて少ないものと考えられた。
- (3) 2011年10月～2012年1月に行った稚貝調査の結果、調査定点9定点のうち8定点で稚貝が採集され、分布密度は3.0～295.4個体/m<sup>2</sup>(平均71.1個体/m<sup>2</sup>)であった。分布密度は松川浦北部の川口前・棚脇前・地島南で高く、西部の和田・松川支所前で低く、南部の大洲東では採集されなかった。
- (4) 稚貝の月別分布密度は、2011年11月まで平均2.8～13.7個体/m<sup>2</sup>と低かったが、2011年12月～2012年1月にかけて急激に増加し100.8～185.2個体/m<sup>2</sup>となった。また、2011年6～8月の稚貝の殻長範囲は6～15mmであったが、2011年12月～2012年1月には殻長2～3mmにモードをもった。8月までに採集された稚貝と12月以降に採集された稚貝は発生時期が異なり、秋季に発生した稚貝の着底が良好であったものと考えられた。

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23～27年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度～22年度福島県水産試験場事業概要報告書